

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内立中津小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	北区
学 校 名	大阪市内立中津小学校
学 校 長 名	三辻 文子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市内立中津小学校では、第6学年 69名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立中津小学校の結果概要

平均正答率を全国と比較すると、国語－2.9%、算数－0.4%となり、国語科を大阪府と比較する－1%、算数科は同水準であった。

本校が今年度より取り組んでいる、【問題解決の過程そのものを楽しむこと】【自分の考えを表現し、友だちの考えと比べりつなげたりすること】【対話を通して「なるほど」「そういう考えもあるんだ」と思える経験を増やすこと】を特に意識しながら授業改善を行った。

また、継続して習熟度別少人数授業や少人数授業に取り組んでいるため、個に応じたきめ細やかな指導の充実が、児童の学習意欲の高まりを感じられる結果となった。

教科に関する調査より、各教科において全国・大阪府の平均正答率からの分析により、以下の点について成果が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】問題1二(2)「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかみる。」、問題1三(2)「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。」において、全国・大阪府の平均正答率を大きく上回った。これは、本校が取り組んでいる「主体性」、「協働性」、「創造性」を重視した児童育成を図った学校生活や授業改善に取り組んだことにより、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決し、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する態度を養うことができたと考えられる。

しかし、「漢字を文の中で正しく書き使うこと」や「目的に応じて、必要な情報を見つけること」の課題が明らかになった。これまでに学習した漢字の活用をより意識して使うことや文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけられるようにすること。また、引用したり、図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるような「書く」学習活動を充実していく。

【算数】問題1(1)「立法体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる。」問題3(4)「単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる。」では、全国・大阪府の平均正答率を大きく上回った。これは、習熟度別少人数授業に取り組み、個に応じたきめ細やかな指導の成果の現れである。

しかし、「数を四捨五入して、概数で表すこと」や「単位量あたりの大きさ求める除法の式の意味を理解すること」に課題が明らかになった。今後もより一層、概数に関わることや数量に関わる数学的活動を通して身のつけられるようすしていく。

質問調査より

(8)「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問項目において、肯定的な回答が83.6%の結果であった。また、(9)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問項目においては、最も肯定的に回答する割合が全国・大阪府の平均率を上回る結果となった。さらに、(21)「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか。」においても肯定的な回答の割合が全国・大阪府を上回った。これは、大阪市取組施策の「ブロック化による学校支援事業」や「区教育活動支援事業」での学びサポーターの人的支援も活用し、すべての教職員が子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ね、子どもの自己肯定感を高めることで何事にも前向きに取り組む、最後までやり抜く姿勢を育ててきた結果である。また、地域・保護者の皆様に教育活動の理解と協力など、一つひとつの関りが、子どもたちにとって大きな力になっている。

これらの結果から、子どもたちがより良い学校生活を送り、良好な人間関係を構築するための指導・支援の成果である。

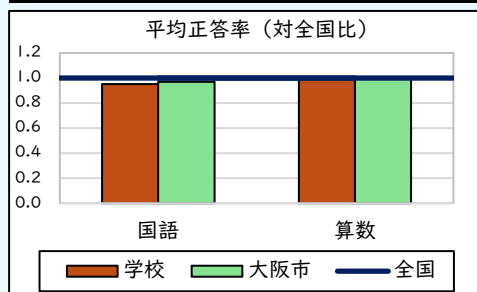
今後の取組（アクションプラン）

- ・ 今後も子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ねることで、子どもの自己肯定感を高め、何事にも前向きに取り組む、最後までやり抜く姿勢を育てていく。また、学 校規律の指導をさらに進める。
- ・ ICT機器環境の充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習効果を高める活用方法についての実践を積み重ねていく。
- ・ 「主体性」、「協働性」、「創造性」を重視した児童育成を図った学校生活や授業改善に取り組むと共に、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりする機会を多く設定する。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

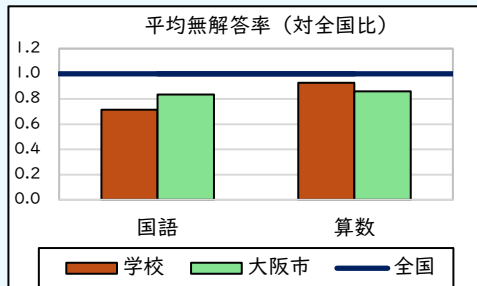
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	58	56
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



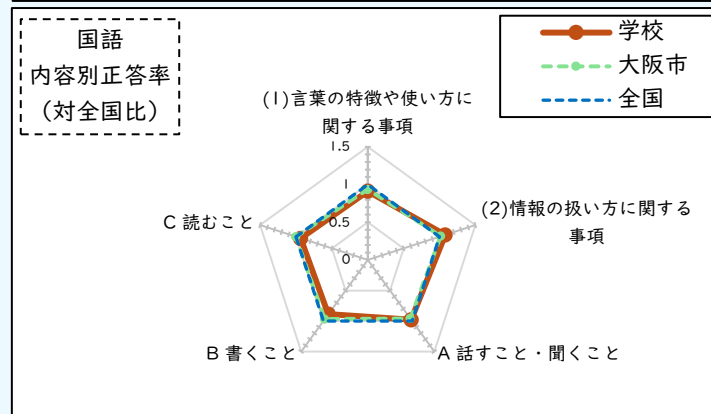
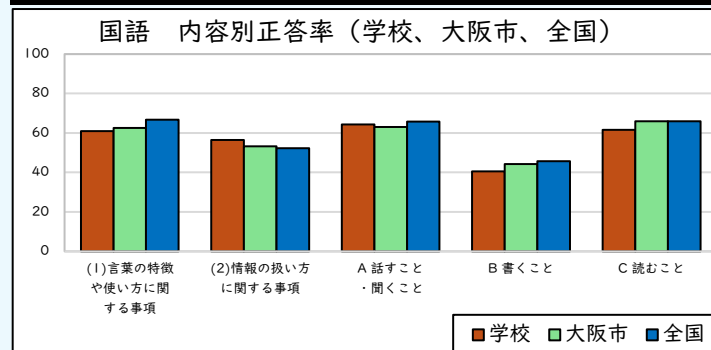
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	2.4	3.0
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



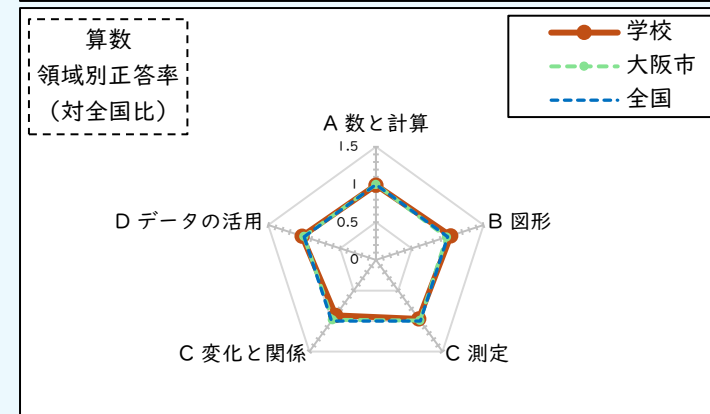
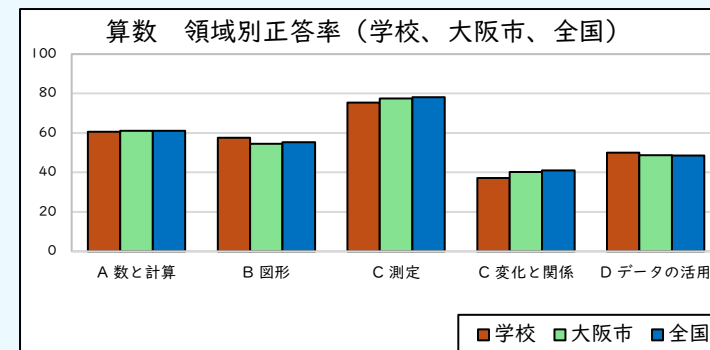
【国語】 内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数(問)	平均正答率 (%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	60.9	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	56.5	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	64.3	63.1	65.8
B 書くこと	2	40.6	44.2	45.7
C 読むこと	2	61.6	66.0	65.9



【算数】 領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数(問)	平均正答率 (%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	60.7	61.2	61.1
B 図形	4	57.6	54.5	55.3
C 測定	1	75.4	77.5	78.1
C 変化と関係	3	37.2	40.3	41.1
D データの活用	4	50.0	48.8	48.6



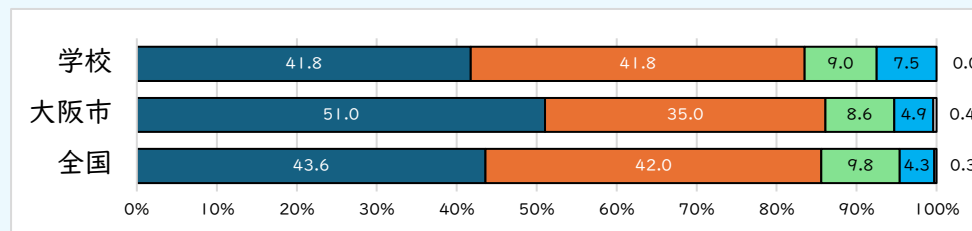
令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号 質問事項

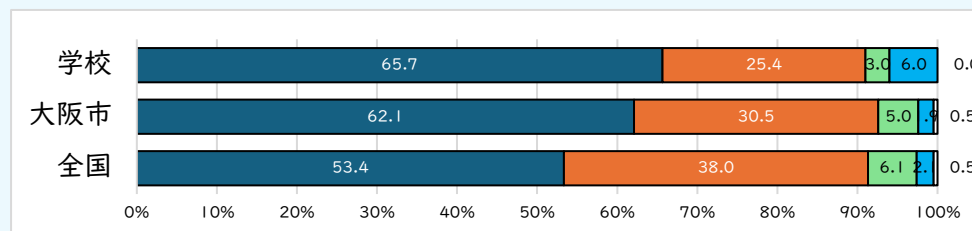
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



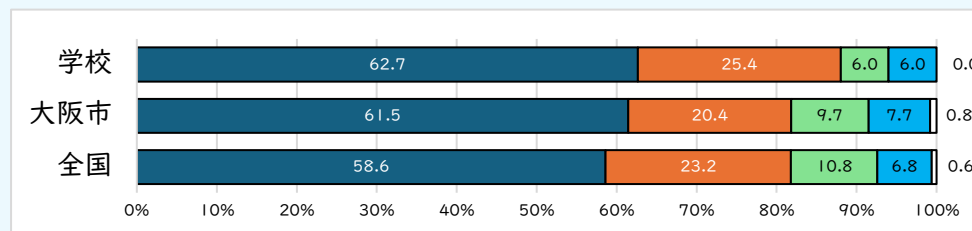
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



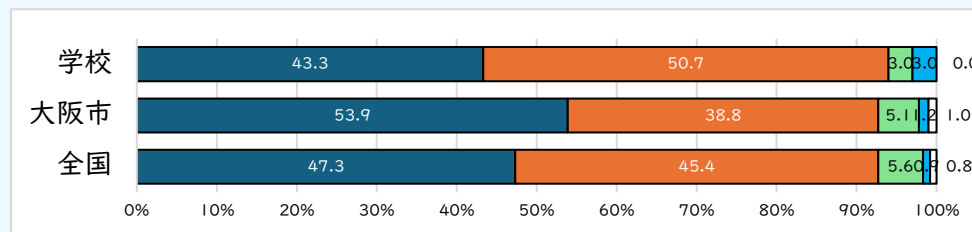
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



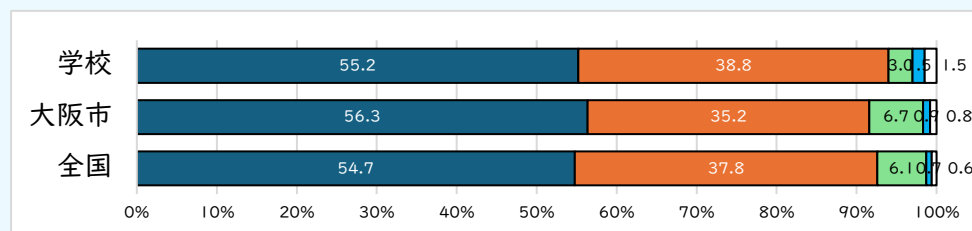
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(11) 人が困っているときは、進んで助けていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(21) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



1 よくある
2 ときどきある
3 あまりない
4 全くない

令和8年度全国学力・学習状況調査 学校質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

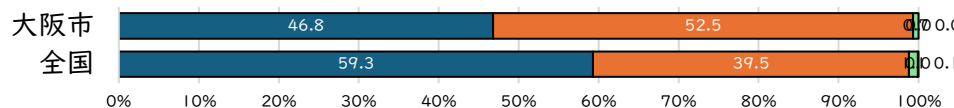
質問事項

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(11)

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

【学校の回答】 1 よく行った

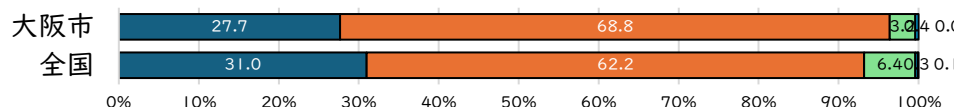


- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった

(29)

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

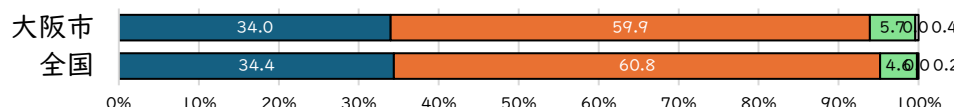


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(32)

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を

【学校の回答】 1 よく行った

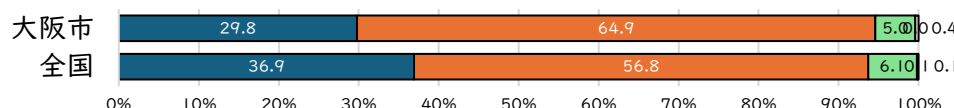


- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった

(41)

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

【学校の回答】 1 よくしている

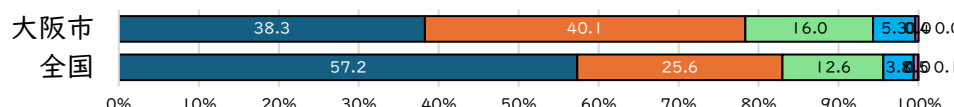


- 1 よくしている
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(60)

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

【学校の回答】 1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）



- 1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
- 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
- 3 週3回以上
- 4 週1回以上
- 5 月1回以上
- 6 月1回未満